



# 女性の声を

## 静岡県婦人会

西部地区

テーマ 「婦人の個性と

とき 昭和62年7月27日

ところ 浜松市福祉文化会

# 県政に

## 議開催

能力の発揮

館



七月二十七日、浜松市で「県政への婦人の参加」を統一テーマに掲げた、初めての県婦人会議が開かれました。これは県が、「政策決定の場に婦人の参加を」と、東、中、西部の三地区で開催するもので、まず西部二十三市町村の婦人活動の代表者と、県から出席した斉藤滋与史知事、鈴木農夫生活環境部長、林のぶ婦人課長らが、「婦人の個性と能力の発揮」について話し合いました。

最初に知事が、婦人の地位や福祉の向上を目指した「婦人のための静岡県計画」を策定したことを説明し、「女性固有の鋭い感覚やきめの細かさで地域のニーズをとらえ豊かな社会の形成に力を発揮してもらいたい」とあいさつした後、活発な意見の交換が行われました。

○女性の登用  
県の職員や幹部クラスにもっと女性を登用してほしい。それにはまず、一人の人間として認める男性の目がないと実現しない。女のくせにとという男性の意識改革にとりくんでもらいたい。

確かに「男は仕事、女は家庭」という意識が根強く残っている。この問題の解決には、男性自身の努力はもちろんであるが、女性の中に同性をもち立てる雰囲気が出てくること、が肝要である。県としても「婦人のための静岡県計画」の主要課題として「婦人の社会参加の促進、充実」を取りあげており、より一層の啓発をしてゆきたい。

婦人の審議会等への登用率

県	8%	70年目標	20%
国	5.2%	75年目標	15%
全国平均	7.2%		

県の婦人議員

前回	78人中 2人 (0人)
県	977人中 15人 (10人)
市町村議員	全 国 1,420人 (総定数 2.1%)

市町村の婦人行政窓口

土肥町	住民課
中川根町	総務課
本川根町	企画調整課
掛川市	市長公室
井川町	企画財政課
榛原町	総務課

※浜松市は教育委員会内に社会教育課婦人室  
上記市町村以外は各市町村教育委員会社会教育課 窓口とし

○婦人の労働条件改善  
男女雇用機会均等法等で婦人の働く条件は整備されてきたが、中小企業やパート、内職などの労働環境の改善に、行き届いた行政の目を！

婦人の職場進出は大きな潮流となっている。静岡県では全国より五年も早く、就業婦人が家事専業を上回ったが、全国的にみてその増加分の半数以上はパート労働である。内職相談も沼津、静岡、浜松で実施しているが、パートを含め更にきめ細かい対応を心掛けてゆきたい。

15歳以上女子の就業率、家事専業者の推移(県)

	S. 55	S. 60	S. 60(全国)
就業婦人	51.5%	52.2%	46.4%
家事専業者	32.8%	29.9%	34.4%

資料：総務庁「国勢調査」より

○活動の活性化に支援を  
働く婦人がふえている中で、ボランティアや地域づくりの活動への参加者が減っている。特に若い人に受けついでもらいたい。魅力づくりや参加呼びかけにご支援をお願いしたい。

例えば県の広報誌などで呼びかけるといのは、良い方法だと思ふ。しかし、地域の特徴、個性を重視し、行政があまり介入しすぎないことも大切である。やはりこの問題は、その団体自身の問題として、生き生きとした魅力ある団体にするような創意工夫と、リーダーの養成、若手の登用などが必要であろう。

○活動の窓口と拠点  
県の婦人課の活動が、情報として得にくい。県だけでなく市町村にも、婦人課の窓口を設置してほしい。あわせて縦、横のネットワークをはかるため、拠点となる施設も！

県下七十五市町村中、六カ所に婦人課の窓口がある。その他の市町村は教育委員会事務局で扱っている。本年度新たに婦人の活動実態をつかむため、団体、グループの活動状況、活動拠点等を調査することとしている。それにより、時代に即した婦人の活動拠点となる施設も検討してゆきたい。それまではそれぞれに合った方法を、行政側と相談してゆきたい。

- S56. 女子差別撤廃条約批准
- S60. 男女雇用機会均等法が成立
- \*
  - S55. 生活環境部に 婦人対策室を設置
  - S58. 生活環境部に 婦人青少年課を設置
  - S62. 生活環境部に 婦人課を設置  
婦人課に女性課長就任  
全国に婦人単独課は10都府県  
女性課長は8人
  - S61.3 婦人のための  
静岡県計画策定

○研修会の充実  
婦人活動により、婦人の能力は啓発され、発揮もされる。そのために学習の場が必要であり、研修会の内容を充実し、参加人数の枠を広げてほしい。

- ボランティアや地域づくり活動をするためには、婦人が自らの能力を高めることが必要であり、県では婦人活動の指導者養成を目的として、いくつかの研修会を開催している。県、市町村や婦人の諸団体でも、学級、講座、講演会等を開催している。積極的に参加してほしい。
- …主な婦人課対応施策…
  - 婦人の海外研修事業
  - 婦人の活動参加促進講座
  - 婦人の地域活動実践講座

取材して  
婦人が知事に話しかけたり、知事が直接婦人 声 聞く機会。緊張した雰囲気は漂うなか、ざっくばらんに話され知事 笑顔で、一遍になごやかにになりました。  
地域活動し、い 婦人たちが、いに悩みながらも問題意識 もっ 実践しい 姿 見、かんめい 受けました。また、提言だけに終わらず一歩でも前進す よう期待したいと思ふ。

### 心のゆとり必要

女性が仕事と家庭を両立させるには、時には睡眠時間を減らざるを得ない時もあります。そういう毎日の中では、社会参加の心も育ちにくいと思います。人のために何かするには、心にゆとりがないとできません。人それぞれ、社会に目をむける余裕ができた時にできる範囲で参加したら良いと思います。

嫁姑がならみ合っているような雰囲気の中からは、建設的な意見は生まれません。お互いに、相手の言うことを謙虚に聞こうという態度がなければ、接点は見出せないと思います。(30代PTA役員)

### 問題意識が少ない

社会一般の問題に興味をもつていても、問題を身近に感じないと活動に結びつかないのではないのでしょうか。例えば、子供を持つ母親同士のおしゃべりの中で、公園の環境(危険物の存在など)の問題に気づき、活動につながる可能性があるでしょう。静岡の人は老若男女を

# スクランブル

## 拝借いたします……

# ウーマン

## ……ちょっとお耳を

### 生活経験は重視すべき

その人その人で考えが違うから、自分に合った会を見つけ、参加すれば良いと思います。年寄りも頑固だけれど、生活経験は絶対に、軽々しいものではないと思います。若い人は私らではとてもできないようなことを、平気でやってしまうところもあるが、気にしないです。仕事を片づけることにしています。それを見て、若い人が少しでも気づくところがあれば良いと思います。

(70代主婦)

### 意見の違いは当り前

始め救いたいと思いました。次にどちらの意見も言える！と感心しました。要するに行きづまったら発想の転換が必要で、意見が違うことは当り前、違ってから素晴しいと思つたらどうでしょう。意見の違いは世代のせいばかりとは限りません。一人一人の間隔の持ち味ではないでしょうか。まず相手の意見を聞いて、それ

問わず、現状のままで良いと思つている人が多いようです。それが活動への参加を少なくしています。(20代主婦)

### ヤングの意見に同感!!

ハイミセスは、自分がしてきたことを正しいと信じ、それを若い人に押しつけようとする人があります。年配の人から教わるものも多いが、彼女らの頭が固いのも確かです。もっと柔軟な態度で、新しいことに接してほしい。(20代主婦)

### 視野が狭いのでは?

ハイミセスの言うことは、自分の経験だけに基くことが多い。ずっと専業主婦できた人は、社会とのつながりに欠け、視野が狭いように思える。女にとって結婚がすべて、女の人生、夫次第などと考へ、娘の良縁をひたすら願う。

しかしこのハイミセスの視野の狭さは、家事・育児が母親のみに押しつけられて、家庭に縛られていたところにも原因がある。(20代O・L)

## ヤングミセスから もっと意見を聞いて!

先日ある婦人の集まりに参加して、40代くらいのハイミセスと20代後半のヤングミセスの私は、最初からすれ違ひ。  
「あなたの言うことは理想であつて、現実じゃねえ」  
「あなたは子供がないからわからないのよ」と人の意見を受けつけようとする態度にそのうちに腹が立った。

婦人活動に、ヤングミセスの参加が少ないことが指摘されるが、若い人の考えを受けつけないハイミセスの態度が、原因の一つであるように思えてならない。経験も豊富で、それなりの自信があるのも当然だが、それが「絶対」かどうか。  
若いからこそ持てるフレキシユで柔軟な考えもあるのではありませんか。私たちの意見にも耳をかたむけて下さい。

## ハイミセスから もっと進んで参加して!

近頃の若い方の中には、地域活動のお誘いに行つても、なかなか入会してくれない人が多い。隣り近所と職場だけ、つまり、自分の身のまわりだけ良ければ、それで良いという考えの方や、目先の物質的利益や、メリックトがないと入会しない人、あるいは、自分自身の考えを持っていて、他人に左右され

れて入会したり、やめたりする人もいます。地域づくりに参加することは、人から人に伝わつて、やがて、自分に戻ってくるということをもっと分かってほしい。世間があつて、我が家が成り立っているということを理解して、若い方たちにも、積極的に地域の活動に参加してほしい。



があるように、会の活動も自分に合っているか選択しても良いのではないのでしょうか。また、自分の会に入会しないからといって、「思いやりがない。地域作りに参加しない」と考へるのも早計です。

お互いの生き方や考へ方の違いを、理解し認め合つてコミュニケーションを計る姿勢がないと、うまく続きません。無理して仲間を大勢集めようとするのが大切だと思います。(50代婦人活動経験者)



### 活動でエネルギー充電

両者の意見とも同感です！と言ふのは欲ばかりかしら?。ハイミセスの意見の中で、「世間があつて我が家が成り立つ」の言葉に、「これだ!!」と思ひました。とかく、金の秤りにかけて損得で考へ、行動するようになって今日、この言葉はズバリつていう気がします。子育て真最中の私は、仕事から離れてやつと手にした自分の時間を、何かの会合や練習によって束縛されるよりは、家庭を大事にした方がと考へない訳ではありません。しかし、そんな自分を自分で叱つて参加すると、終わった後のすがすがしさ。あの味を一度覚えたら止められませんか。そのエネルギーの充電があつて、また、家庭を大事にできる気がします。(沈黙する30代)

### 活動内容の見直しを

地域活動といっても、一体誰が何をやっているのか、よくわかりません。活動の趣旨や具体的な内容を、はっきりと若い人に知らせる努力をすべきだと思います。目的の説明もなく、参加を強要されても困ります。本当に意味のある活動をするように、考へてほしいと思います。(20代主婦)

### 生活基盤がまず第一

自分たちの若いころを思い浮かべてみて下さい。このような活動に、積極的に参加できる時間的、精神的余裕があつたのでしょうか。子供のため、家族のために、精いつばい働く親の姿は、昔も今も何ら変わりはないと思います。我が家の生活基盤が成り立ち、余裕が出てきてこそ、このような活動に参加する意欲も出てくると思います。(32才主婦)

今、はやりの異業種交流? イイエ、女たちのねつとわあきんぐをつよめるために、あえて、本音のぶつかりあい。サンセイイ・ハンターイ・ご意見およせください。わかりあうつてすばらしい。

## グループ紹介

現代の女性の生き方を求めて  
 〈女性史講座〉

昭和五十一年九月、窪田信子先生にお願いして、二十数名で日本古代女性史を学んだのが、この講座の始まりです。

七十名近い受講者の皆さんは、「古事記」や「源氏物語」をひも解きながら、それぞれの時代の女性の生き方と、現代に生きる自分とを重ね合わせて、目を輝やかせて聞き入っていました。

自主講座として十年もの間、熱のこもる受講生に、講師の先生もピットリ応えてきました。そして、役員のバトンタッチが上手に運んでいるところにも、この会の息の長い秘訣がありそうです。

生涯教育の場として、常に勉強する意欲を持ち続けていこうとする皆さんは、二十周年を目指し、新たな一歩を踏み出しました。

連絡先 富士宮市貴船町二二二

電話 〇五四四(24) 六六一二

代表者 平野 雅 恵



手作りおやつでふれあいを  
 〈焼津第一自治会婦人会〉

何かボランティア活動をという婦人会の希望と、精神薄弱児のための施設であるボプラ学園からの要請がマッチして、昨年からは始めたおやつ作り。学園で週二回開かれる親子教室に集まる子供達に、マドレーヌやプリンなど手作りのおやつを届けています。

ほかに、バザーを開いて学園に寄付をしたり、もちつき大会等の行事に招かれて、子供達とのふれあいを楽しんだりもしています。

活動を通して地域のまとまりを強めるのも目的の一つ。より多くの人々の参加を期待しています。現在メンバーは、三十代から六十代の婦人。職業を持つ人が多いため、忙しいなかでの活動ですが、おやつを楽しみにしている子供達のためにも、長く続けていけるよう努力していきたいとのことです。

連絡先 焼津市鰯ヶ島二五一—一

電話 〇五四六(28) 五八九〇

代表者 吉原 敦子



満五年を迎えた「えふおーるOG会」  
 会員は二十代〜六十代まで三十二名。みな各々仕事を持っています。

規約に「精神的、経済的、社会的、生活的に自立するための能力の向上を目的とする」とうたっています。「えふおーる」とは「自助努力」を意味するフランス語。

月一度の学習会に、忙しい時間をやりくりして出席するが、帰る時は「来てよかった」と思うそうです。この日集まって下さった皆さんは、自分が大きくなりたい、と心から思うっている少年や少女のような、生き生きした目をしていました。

専門部の活動として高齢化問題、カウンセリング、子供の料理教室の三つがあります。身近で切実なテーマに取り組み、確実に自分の力にかえていこうように見えました。

連絡先 磐田市城之崎一—二一六

電話 〇五三八三(4) 五四七三

代表者 吉田 隆子



# キティさんの榛原日記

Women-Some Thoughts  
by Kitty Tamura



私の第一印象というのは、ずいぶん前のことであり、ややあいまいになっているのですが、日本人について最初に感じたのは、次のような見かけのことだったと思います。

- ①ほとんどの人が私より背が低い。
- ②黒い髪に黒い目をしている。
- ③みんな日本語を話す。(変なことを言うとお思いでしょうが、初めての異国での生活において、文字通りコミュニケーションのための言葉を持たなかった私が、感じたことなのです。)
- ④いつも微笑んでいて親しみやすい。

- その他、特に女性については、
- ①笑う時に自分の口を手で隠す。
  - ②着物の上に大きな袖のついたかわいいエプロンをしている。
  - ③着ている服を見れば年齢がわかる。特に年配の女性はみな同じような服を着ている。
  - ④狭い台所で手早くごちそうを作りあげる。
  - ⑤お客さんをもてなす時、主婦はいっしょに食べない。

これらの習慣が、アメリカの女

性たちのものと違っていかどうか、はっきり言えません。それはアメリカの女性はそれぞれ異なっていて、そのうち何人かは日本人と同じ習慣を持っているかもしれないからです。しかし、私の知っている限りでは、このような習慣の人はいませんでした。

見かけ以外のことで、日本の友人たちを知られば知る程、内面的な感情においてはその表現のしかたが違うだけで、日本人もアメリカ人も同じものを持っているということに気づいてきました。

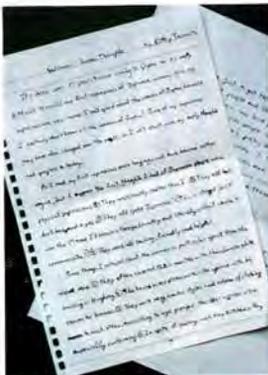
さらに、日本人はこうで、アメリカ人はこうだというように、一概には言えないということもわかりました。私が日本で、そしてアメリカで知り合った人々の中には本当に様々なタイプの女性がいました。社交的でもっともおもしろい人もいましたし(そう、日本の女性にも)、内気でおとなしい人もいました(そう、アメリカの女性にだって!)。日本にもアメリカにも、夫に頼りきって暮らしている女性がいますし、仕事をもち、子供もいて、家のこともうまくやっているスーパーウーマンも(そんなに多くではないにしろ)います。親切な人も、不親切な人も、

も、礼儀正しい人も、無礼な人も日本にだってアメリカにだっているのです。

見かけが違ってても、物事のやり方が違ってても、結局、女性は女性なのです。いろいろな点で同じですし、いろいろな点で違うのです。

## マイ・フレンド

キティーさんは、吉田町在住田村俊治氏の奥様です。田村氏の御両親と3人の子どもさん、そしてすぐ近くに義妹さんという大家族。母親であり、主婦であり、英会話の先生でもありと、目下大忙しの毎日です。日本語はペラペラ、おまけに榛原弁もかなりのもので、とにかく自分の周囲を常に明るくする、ユーモアとウィットに富んだ女性なのです。今年、3月に御両親、7月に妹さん夫婦が来日し今はカントリーシックかも知れません。末長く友人でありたいと思う女性の1人です。 S.N





「遍歴」は、ヴァジニア・ウルフの翻訳者、研究者であり、医学博士でもある著者の自伝ともいえるべきものである。

この本が、偉い人物のまことにりっぱな人生の記録という読後感を与えるだけのものではないのは両親のいさかいに心痛める幼女、生きることに悩む少女、貧しさをやりくりする主婦、子供の病氣と戦う母、尊敬する夫と共に勉強したいと願う妻、そういう一人の女性の必死な生き様が、敬意と共に一種の共感として心を打つからであろう。

第一の話「スイスものがたり」は、父前田多聞について、「動物園のようだ」と言われながら家族全員で行ったスイスの思い出。九才の著者が通った寺小屋式の小学校が、現代人の目にはどれほど素晴らしく映ることか。また戦前の文化人が外国で「日本を代表」して気張って生活していた様子が、確かな子供の目を通して描かれてい

るのが興味深い。

著者は、津田英学塾を卒業（一九三五年）してから、東京女子医学専で医学の勉強を始めた。「生きがい」について悩んだあげくに決めた「医学の道」であったが、結婚、貧乏、育児という世間並みの荷を背負いながらの勉強であった。

夫神谷宣郎氏は、この本の発行を見ず亡くなった著者にかわって書いたあとがきに「彼女は一般的な意味で有能、誠実な妻であり、母であった。しかし彼女の心の奥にはそれとは別に、自分のしたいこと、自分に課せられていると感じることが沢山あった。それを駆り立てる内発的な力を、彼女は自分で「オニ」と呼んだ」と記している。

著者はらい患者に接した十五年の年月を一生のよろこびであったという。それは精神科医として一つの事を成した満足感でもあるがもっと優しい、「人の役に立つ」という単純な喜びではなかったか。その著者にとってはまた、夫の応援がどれほど力になっていたかがしのばれて、ほっとする。人は一人では生きられないのだ、という温かい思いが心に残る。

## 新刊紹介

「主婦からの出発」 遠藤雅子著

著者自身の、主婦から作家として一人立ちするまでの記録を通し、専業主婦にゆるやかな社会参加を勧める。「何かを始めたい」と思いついても家事や育児に追われて出発できないでいるあなたへのメッセージブック。  
主婦の友社 九八〇円



「ポストファミリー」 桜井陽子著

結婚、離婚、家族帝国主義ハンターイットと離婚届けを提出、戸籍の窮屈なワクを蹴とばした大胆家族のユニークな生活スタイルの生き生き体験レポート。  
汐文社 一、二〇〇円



子育ての人類学 青柳まち子著

子どもにふり回されている現代の親達に、ミクロネシアのペラウ、トンガそして、ロサンゼルスの人社会で生活した著者の体験を基に、親とは、良い子とは、そして家族、家庭のあり方を問う。  
河出書房新社 一、五〇〇円



「私の古い構え」 樋口恵子著

人生八十年代の老後を、賢くしなやかに生きるために、「古い」から目をそらさず、自分自身の老後人生をしっかりと創ってゆこう。そのために今からその心構えを！  
文化出版局 九八〇円



「肝疾患者の学んだこと」 聖母病院の友人たち 藤原作著

家庭は寝に帰る所と心得ていた多忙な新聞記者が、半年間入院生活を送ることになった。そこで見えてきたものは、人間同士の温かい心の通い合いと、好奇心旺盛な妻のたくましい生き方。  
新潮社 一、一〇〇円



## ある日の出来事

私、自営業で夫と一諸に働いているんです。でも、炊事、洗濯、掃除、子どもの事、みんな私の役目です。仕事が順調にいつている時は、これも当然と思っていたけれど、今日はちよつと違うんです。子どもは目下夏休み、いつもの様にはいかないんです。にもかかわらず、主人は全くいつもの通り、そうなる、いろいろ余分な事も考え出してしまってます。どうして食事は私だけが作るんだろう、から始まって、洗濯、掃除、子供の事、

もやしていたけど、私、ついに言ってみたくです。

「今日一日、私は主婦業休みます!!」

私の予想通り主人はアンパン。

「全くわがままなんだから。勝手にしろよ。」

これで当分の間、険悪状態。

ああ! これは私のわがままなのかな? そ

うじやないと思いつつ、やっぱり今まで通り

の生活を続けるしかなさそうです。でも、時

々私のわがままは出沒しそうです。ここに、

悩める主婦が一人います。(一 拍遅れ)

## 異文化を求めて

今、ヤングの間で一ぱくんナウイ食べ物和菓子。

大きな生いちごが、一粒まるごとHOWマ

ツチノ! 値段は昔ながらの大福の倍と、決して

安くはないが、とにかく「おしやれ」。

当初は業界の「異端児」とも言うべき珍品

だったものが、若い娘に「キヤーキヤー」も

てはやされ人気急上昇!

久能山に眠る「家康公」も「もちとあんこ

と生いちごが、ドッキングした菓子を編み出

す手法を駿府の宝にせよ」と言ったかどうか

は定かではない。

ともあれ、ヤングに大流行と聞いては、多

少薄気味悪い物でもトライせねば……。だって

自称ヤングだものネ。

和菓子屋の店先に、

「いちご大福」と貼り紙

が出ている。ウインド

を眺めれば「あるわあるわ」

いちご大福にキウイ大福、バナナ大福……

物は試しだ! とばかり一個ずつ買い、家で半

分に切り、中の様子を調査し食した。

はつきり言って珍味でR。

おしやれなヤングには、こういうしやれが通

じよう。近代にはない和菓子の革命で胃文化

の大刺激を受け、若者は異文化を求めること

太鼓判。

若い「あなた」一度試食を……。

(くいしんぼー)

## ホプリ



## 人生百二十年、ぼけもせず

昔から、長生きしたいという人間の願いは変わらない。先日、NHKテレビの独眼竜正宗で、豊臣秀吉の醜態ときえ思える長寿への執念を見て、自分や回りの人たちの生きざま死にざまに思いを寄せざるを得ない。

単に長生きすれば良いというのではない。

健康でなくてはなんにもならない。そこで問

題になってくるのが「ぼけ」である。約六十

万人といわれる老年性痴呆患者(いわゆるぼ

け)は、年々ふえ続け、西暦二千年には百万

人に達するという。

最近ある製薬会社から、Aという薬が発売

され、老人ぼけに効くといつてマスコミに騒

がれた。この薬は、ぼけ老人の精神症状を改

善する薬なのだが、何がどうなったのか、こ

の薬をのめばぼけにならないと信じられ、一

流会社の中高年社員がこぞつてのみ始めた

という。いかにぼけが深刻化した問題かを、反

映した現象だ。

ぼけも日常の食生活や生活環境、本人の自

覚でかなり予防できるという。音楽家や画家

作家など、表現することを職業にしている人

はぼけが少ない。何ごとも人まかせにせず、

世話好きで、何にでも興味をもち、その上、

道端の名もない草花を美しいと思える人は安

心だ。人間は生物学的に、百二十才まで生き

られるといわれている。今からでも遅くない。

がんばって挑戦してみよう。そうすると私は、

あと何年残っているのかな……。

(青春している40代)

新生婦人課は

このような仕事をしています

一、婦人行政についての、総合的な調整及び企画

二、「婦人のための静岡県計画」の推進・調整

三、婦人問題に係る国・市町村・婦人団体等に対する窓口

具体的には課長以下十二人の職員が一係と三班に分かれて仕事をしています。

〈庶務係〉

・予算・経理・庶務等

〈企画調整班〉

・婦人対策の企画及び調整

・婦人の活動拠点調査事業

・婦人の登用促進 等

〈婦人啓発班〉

・婦人問題の広報・啓発・資料作成

・婦人の県政参加促進

・婦人の海外研修 等

〈婦人団体班〉

・婦人の社会参加、地域活動促進

・婦人団体の指導者育成 等

みなさんの御意見・御要望・お問合せ等、気軽にお電話ください。  
☎(0542)21-2137・2138・2139

— 62年度編集員紹介 —



佐竹 紀子  
(静岡市)

ヤング代表、20代の編集員の登壇です！夢も希望もいっぱい抱えて、厳しい女性の現実に体当たり！若さゆえの「何か」が生かせたらと思っている私です。

仕事はできないが、よこ道にそれることは、編集員の中でピカー。本誌を読んで、ズッコケ部分が あったら、「それは私です」



大高美知代  
(熱海市)



渥美恵美子  
(浜松市)

個性豊かな仲間といっしょに苦しむうちに夢になってきました。苦しみがいつの間にか楽しさにすりかわって「仕事」をするっていいなあ、と思っている自分があります。

野村佐栄子  
(榛原町)



新しい自分を創り出したいとふと考えた。新しい場所で、新しい仲間と、新しい仕事を、新たな気持ちで始めてみる。

——そして何かが変わるという予感と期待で、楽しい夢を描いています。



寺田マキ子  
(福田町)

最初は、「ドキッ」。私大丈夫かなと心配したのが嘘みたい。今は、私自身をリフレッシュして、初めての経験を楽しみたいと思っています。

女性のための情報誌「ねっとわあく」

第11号

昭和62年11月

編集・発行 静岡県生活環境部婦人課

〒420 静岡市追手町9番6号

☎ <0542> 21-2137

表紙のことは  
静岡県のオリジナリティを大切に……。

県産品アラカルトを、切絵調の素朴な雰囲気女性らしく表現してみました。

「おや？これは何でしょう。」  
「静岡って、これも特産なの。」  
表紙の絵をたどりながら、楽しい会話が生まれてきたら、本当にうれしく思います。

県浜松繊維工業試験場

小杉思主世